

播種期の移動による「紫ずきん」・「紫ずきん2号」の連続出荷技術

農業総合研究所

要旨

「紫ずきん」より早生の「紫ずきん2号」は播種期の移動により収穫期を調整でき、6月25日頃に播種すると、「紫ずきん」との出荷端境期が生じない。また、5月25日から7月15日の間では、播種期が遅いほど莢肥大がよく揃い、収量も多い。

成果の概要

「紫ずきん2号」は播種期の移動で収穫期を調整できる。播種期を10日遅らせることによる収穫期の遅延効果は、6月15日播種以前では5日以内であるが、6月15日以降では7～10日となる(図)。

9月23日頃に初出荷を迎える「紫ずきん」と端境期を生じさせないためには、「紫ずきん2号」は6月25日頃に播種する(図)。

5月25日から7月15日の間では、播種期が遅いほど莢厚11mm以上の莢重量が多い。逆に、播種期が早いと株内の莢成熟がばらつくため、5月25日・6月5日播種では、成熟が早い莢の黄変を基準に一斉収穫すると11mm未満莢の割合が大きい(表)。

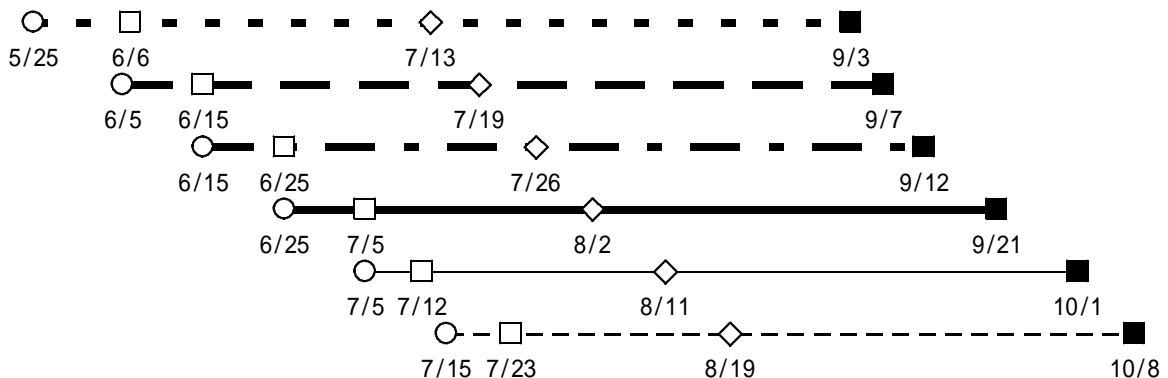


図 播種期の移動による「紫ずきん2号」の開花期・収穫期の遅延効果

注) ...播種期、...移植期、...開花期、...収穫期

表 播種期の違いが「紫ずきん2号」の収量に及ぼす影響

播種期	11mm以上莢数	11mm未満莢数	総莢数	11mm以上莢重	総莢重に占める 11mm以上莢重	収穫期
月/日	莢/株	莢/株	莢/株	kg/10a	%	月/日
5/25	18.8	30.8	49.6	242	54.1	9/3
6/5	30.7	37.9	68.6	370	64.2	9/7
6/15	39.0	31.8	70.8	502	73.1	9/12
6/25	49.0	25.4	74.3	677	82.8	9/21
7/5	46.7	7.7	54.4	780	94.5	10/1
7/15	48.5	11.6	60.0	797	91.6	10/8
比較:「紫ずきん」 (播種期6/5)	93.8	34.7	128.5	999	86.7	10/5

注) 栽植密度は「紫ずきん2号」が3.7株/m²、「紫ずきん」が2.8株/m²である。
莢厚11mm以上が出荷基準となっている。

(問合せ先: 0771-22-5010)